

花のお江戸を歩く会

下町亀戸：観梅散歩

「法恩寺～亀戸天神（観梅）～香取神社」

＜散歩道のご案内＞

今回歩く、亀戸周辺の室町時代の古地図を見ると、海に接する湿地帯であったようです。徳川家康の江戸入府に伴い。本格的な江戸の天下普請がはじまり、寛永から承応まで（1624－1654）；隅田川に沿って埋め立てが進み。亀戸村周辺も埋め立てられ発展したようです。

亀戸地域は、長谷川平蔵や葛飾北斎など江戸のスターが大活躍した場所であり、亀戸天神など古社が点在する古い歴史を育んできた地域でもあります。

東京下町情緒たっぷりの亀戸七福神を「鬼平」や「北斎」の足跡も辿りながら楽しみたいと思います。最後、希望者は名物「亀戸餃子」を堪能ください。

＜散歩道の順路＞

本所吾妻橋駅→業平橋→大横川親水公園→横川橋→能勢妙見山別院（勝海舟ゆかり）→紅葉橋→霊山寺（関東十八檀林）→法恩寺（太田道灌・鬼平ゆかり）→江戸切子会館→千種稲荷神社→錦糸町駅（ランチ）→北斎通り→錦糸橋→横十間川→亀戸銭座跡→亀戸天神（4代将軍家綱ゆかり）→龍眼寺（布袋尊、萩寺）→柳島妙見山法性寺（葛飾北斎・近松門左衛門ゆかり）→北十間川→天祖神社（福祿寿、織田信長ゆかり）→光明寺（2世歌川豊国ゆかり）→普門院（毘沙門天、伊藤佐千夫ゆかり）→梅屋敷跡（喜多川歌麿：臥龍梅ゆかり）→香取神社（恵比寿神、大国神、亀戸大根ゆかり）→東覚寺（弁財天）→亀戸升本→入り豆本店→亀戸十三間商店街→亀戸餃子店→JR 亀戸駅（解散）

＜個別ガイド＞

① 大横川親水公園

この公園は、大横川の一部を埋め立ててできた親水公園です。公園の大きさは、幅 30～40m、長さ 1.85 km、面積約 63,000 m²です。大横川の歴史は、明暦 3 年（1657 年）の江戸最大の火災といわれる大火から始まりました。江戸幕府は、復興の際、火除地等の確保のため、家屋の移転を図り、河川を掘り開き橋を架け、土地の整備を行いました。このとき掘られた河川の一つが大横川で、本所地域を南北に貫通しており、近年まで舟運、材木の貯留など産業経済の発展に貢献してきました。横川という名前の由来は、江戸城に対して横の方向に流れていることからきています。→横川橋

② 能勢妙見山別院（父子鷹ゆかり）

日蓮宗の寺院。大阪府にある能勢妙見山の全国唯一の別院だ。勝海舟の父小吉が、息子の開運出世を祈願したことで著名で、多くの人が開運出世を祈りに訪れる。釈迦の命日に当たる 2 月 15 日には、天下泰平を祈願する『水行国禱会』があり、ふんどし姿の修行僧が

経を唱えながら水行を行う姿は活気にあふれる。→紅葉橋

③ 霊山寺 (崇源院ゆかり)

徳川家康の命を受けて、1601年(慶長6年)大超上人の開山により、神田駿河台に創建された寺です。寛永十二年(1635)湯島に移転。明暦三年(1657)の明暦の大火で類焼し、浅草松葉町へ移転、1689年(元禄2年)に亀戸村(現在地)に移転してきた。

崇源院(江姫)は、若い時代から深い浄土宗の帰依者で、寺社への寄進行為を繰り返していたそうです。江と霊山寺の関わりですが、江は慶長11年、当時湯島恋坂にあった霊山寺に寺領50石を寄進しました。江の侍女民部卿の取次をもって「宝祚延長・国家安全・武運栄昌」の祈禱を行うようにこの寄進がなされたと記しているそうです。

④ 法恩寺(鬼平・太田道灌ゆかり)

開基は太田道灌公。道灌公が江戸城築城に当たり丑寅の方に城内鎮護の祈願所として本住院を建立、資高の代、本住院を法恩寺と改称した。山号を平河山と称するのは、当時この附近を平川村と称したことによるものです。又、当山には秀吉、家康共に小憩され、朱印地も与えられました。

家康が江戸に入り城内拡大に当たり、慶長十年当山は神田柳原に移転し、その後谷中清水町に移され再度元禄八年に幕府により現在の地に移りました。境内は輪奥の美を整え宗門における関東の触れ頭として現在でもその威勢を誇っております。→江戸切子会館→オリナス

⑤ 種稻荷神社

徳川四代将軍家綱の時代(寛文～延宝)に治水工事が行われその後、柳島村の守護神として祭られたと伝えられています。明治時代になっても、この稲荷神社は保護されて郷土の守護神として残されました。その後、陸軍糧秣廠(りょうまつしょう)(陸軍の兵隊の食料や軍馬のまぐさをたくわえた役所)本所倉庫をこの地に建設したとき、敷地内にあった稲荷神社を取り払ったところ再三火災が発生。そこで旧位置に稲荷社を再建して祀ったところ不思議にもその後火災はまったく起こらなかったといえます→北斎通り→横十間川

⑥ 亀戸銭座跡

寛文8年(1668)呉服屋を営んでいた後藤縫殿助が中心となってこの亀戸の地で、大規模な銅銭鑄造が開始された。ここで鑄造された寛永通宝には「文」という文字が入っていて、「背文銭」と呼ばれたという。銭座は金座や銀座に比べると全国に多数存在したらしく、この隅田川付近でも、たとえば千住あたりに存在したらしい。→船橋屋(くずもち)

⑦ 亀戸天神(鬼平・北斎・広重ゆかり)

正保三年(1646)九州太宰府天満宮の神官だった菅原大鳥居信祐公(道真公の末裔・亀戸天神社初代別当)は神のお告げにより、公ゆかりの飛び梅の枝で天神像を刻み、天神信仰を広めるため社殿建立の志をもって、遠くは日光または盛岡などの諸国を巡り歩かれ、そして江戸の本所亀戸村にたどり着かれ、村に元々ありました天神の小さなほころにご神像をお祀りいたしました。

四代将軍徳川家綱公は江戸の町を焼き尽くした明暦の大火の鎮守の神様としてお祀りするように現在の社地を寄進されました。そして、寛文二年（1662）10月25日に太宰府の社にならい、社殿、回廊、心字池、太鼓橋などを営み、以来約350年後の今日まで東国天満宮の宗社として崇敬されてまいりました。

⑧龍眼寺（萩寺）

天台宗 慈雲山 無量院 龍眼寺（萩寺）。龍眼寺創建は応永2年（1395年）、良博大和尚が観世音の夢告とおり、柳島辻堂の下に眠る観世音をまつり、村に流行していた疾病を平癒し、慈雲山無量院柳源寺と号しました。その後、寺の湧き水で洗顔すると目がよくなると眼病平癒の観世音として信仰を集め、龍眼寺と改名しました。

江戸初期には、住職が百種類もの萩を諸国から集めて境内に植えたことから、通称“萩寺”として多くの文人墨客が訪れ、「江戸名所図会」には萩を愛でる人々で賑わう様子が描かれています。境内に咲く四季折々の花々は、訪れる人の心を和ませ、松尾芭蕉、落合直文など文人墨客の句碑が昔の風情を偲ばせます。

⑨法性寺（葛飾北斎ゆかり）

江戸時代に浮世絵師として活躍した葛飾北斎は、葛飾の本所の生まれであったため「葛飾」と名乗り、「北斎辰政（ときまさ）」と改名したのは「開運北辰妙見大菩薩」を信仰していたからとされています。師匠に破門にされ、生活に窮した北斎は、一時、絵筆を折ろうとまでします。しかし、「柳嶋の妙見さま」へ21日間お参りし、満願の日の帰り道に落雷に遭って失神。その後、めきめきと売れ出して有名になり、数々の名画を残しました。

世界的に有名な画家として知られるようになったのも、「柳嶋の妙見さま」のご加護があったからなのです。

⑩天祖神社（織田信長ゆかり）

創立年代は明らかでないが、推古天皇の時代に建てられ、聖徳太子作の御神像の神体がまつられていたと云われています。また、天正年間（1573～）悪病が大流行したとき、織田信長がこの神社で流鏝馬の行事を行わせたところ、たちまち収まったので、以来病気を治す神社として有名になりました。現在でも毎年9月16日の祭事として、子どもによる歩射（びしゃ）が行われています。境内には亀戸七福神：福祿寿も祀られている。

⑪光明寺（歌川豊国縁）

光明寺は天台宗で、亀命山遍照院と号し創建は弘治元年（1555）と伝えられています。境内には、寛永5年（1628）という区内でも古い年号をもつ法篋印塔、延宝4年（1676）の庚申塔、越後国（新潟県）新発田藩主溝口宣広奉納の寛永寺旧蔵石造燈籠、役者絵・美人画に独特の境地を開き、浮世絵の第一人者と賞された二世歌川豊国の墓などがあります。

⑫普門院（伊藤左千夫ゆかり）

開創は大永2年（1522）、長賢上人を招いて石浜城内に開かれたと伝えられる。石浜城は武蔵千葉氏の居城で、現在の石浜神社（荒川区）のあたりにあったとも、待乳山（台東区）

にあったとも伝えられる。元和2年(1616)亀戸村の現在地に移転。この時、過って梵鐘を隅田川に沈めてしまった。これが鐘ヶ淵(墨田区)の地名の由来と伝えられる。慶安2年(1649)には朱印地5石を寄せられている。江東区に在住した伊藤左千夫の墓がある。

⑬梅屋敷跡(臥龍梅・広重ゆかり)

水戸光圀が命名したと云われる「臥龍梅」が有名な梅の名所跡。もとは本所埋堀(現在の墨田区)の商人、伊勢屋彦右衛門の別荘で、庭内に多くの梅が植えられていたことから梅屋敷と呼ばれるようになった。また、八代将軍吉宗も鷹狩の帰りにこの地を訪ねたとのこと。江戸近郊の行楽地として賑わい、その様子は歌川広重の「絵本江戸土産」にも取り上げられたほど。明治43(1910)年の水害で全ての梅は枯れてしまい、現在は石標柱が当時を偲ばせるのみである。

⑭香取神社T(亀戸大根ゆかり)

旧・亀有村の鎮守。旧別当は香取山恵明寺。往古、亀有は下総国葛西御厨亀無村といい、香取神宮の神領であったことから、建治2年(1276)その御分霊を勧請して、村の鎮守としたという。その後、鹿島神宮(武甕槌大神)と息栖神社(岐大神)の御分霊を合祀し、東国三社の神を祀る社として現在に至る。

なお、亀有の地名については、江戸時代、亀無の「無」の字を嫌い、「有」の字に改めたのであろうという。地名に因み、旧社殿の屋根には一對の亀形瓦が置かれていた。現在は葛飾区の登録有形文化財に指定されている。平成21年(2009)には、亀形瓦を模した狛亀が大鳥居脇に建立された。現在の社殿は昭和42年(1967)に改築されたもの。その際、旧本殿は境内の亀有招魂社に、旧拝殿は改造して神楽殿とされている。

⑮東覚寺

享祿4年(1531)の創建と伝えられています。明治34年(1901)覚王寺を合併しました。覚王寺は猿江2-15付近にあり、府内88ヶ所霊場第73番札所で、それを示す碑が東覚寺に残されています。当時の不動明王は、東大寺別当良弁(689~773)の作で、大山寺(神奈川県)本尊と同木同作といわれ、江戸時代より亀戸不動として信仰をあつめてきました。亀戸七福神のひとつ(弁財天)として親しまれています。

→割烹升本→亀戸梅屋敷→但元いり豆本店→亀戸餃子→亀戸駅(解散)